

## 明けましておめでとうございます

## 年頭所感

## 《一般社団法人日本RPF工業会会長 長田和志》

2022年の新春を迎えるにあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。  
会員の皆さまにおかれましては、厳粛な新年をお迎えのことと拝察いたします。  
旧年中は、関係省庁、関連団体、会員の皆さまには、当工業会の活動に多大なるご支援、ご尽力をいただき、心より御礼申し上げます。  
本年も一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

昨年は、今後の社会の在り方を方向付ける気候変動防止対策についての重要な総意形成がありました。

国際的には、COP26において気候変動対策が急務の課題であることが合意され、国内的では、2050年カーボンニュートラル社会の実現のため、様々な施策が決定されました。

約200年前に化石資源をエネルギー源とした発明により、産業革命が起こり、飛躍的な発展を遂げました。そして現在では、気候変動を阻止するため、世界的な脱炭素社会の実現を目指し、エネルギー源を化石資源から再生可能エネルギーに転換するという、次世代イノベーションによる、産業革命が推し進められています。

このような状況下の中で化石資源代替のエネルギー源としてのRPFが着目され、2030年には200万トンに需要が伸びるのではと、試算されています。

サーキュラーエコノミーを実現すべく、昨年「プラスチック資源循環促進法」が成立いたしました。

この法律におけるRPFの立ち位置を明確にすべく、業所管省庁の環境省、経済産業省と意見交換を行い、理解を深めてきました。

エネルギー源として化石資源の使用量を削減し、地球温暖化ガス（GHG）の排出抑制に寄与している、高効率なエネルギーリカバリーであるとの評価も得ています。また、RPFの使用用途がケミカルリサイクルにおいて、燃料（SRF:Solid Recovered Fuel）ではなく、原料（SRM:Solid Recovered Material）として使用された場合、再資源化の範疇に入るなど、RPFは用途により再資源化方法が多岐にわたるとの理解も得ています。

今年は、浮き彫りになったRPFの課題を明確にすべく活動いたします。

RPFの優位性を「見える化」するため、GHG排出係数の精緻な見直しを環境省のご指導のもと行います。また青年部を立ち上げ、その行動力により、近々の課題であるDX、SDGsの促進を図ります。外国人技能実習制度における技能評価試験実施機関として厳正に事業を展開します。



サーキュラーエコノミーの実現のため、国内の廃棄物資源を最大限に有効活用し、再資源化に努めてまいります。そのためにも、リサイクラー、資源を活用し製品を作るメーカー、そしてすべてのサプライヤーが真摯に協業することが、必要不可欠だと考えています。

地球温暖化防止、脱炭素社会の実現、持続可能な循環経済の構築、変貌する社会の在り方に沿った工業会のエシカルな姿勢を、強く打ち出してまいります。

世界的な社会の転換期、業界にとりましても大変重要な一年となります。

会員の皆さまには、本年も益々のご協力を賜りますようお願いし、新年のご挨拶といたします。

一般社団法人 日本 RPF 工業会  
会長 長田 和志

### 《技術品質委員長 三輪 陽通》

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

昨年の活動は10月25日にwebで勉強会を1度開催しただけに留まりました。発信の少なさに反省しております。

本年度は2月には新しい試みとしてバーチャル見学会を関商店様のご協力の下、開催する予定です。こちらの成果次第ですが、第2回、第3回と進めていくことも検討します。

またコロナ禍においてBCP（事業継続計画）の重要性も高まっております。当委員会としては持続可能な工場運営に関しても発信できるよう努めてまいります。

引き続き厳しい状況下ではありますが、歩みを止めることなく皆様にとって有益な情報を発信してまいりますので、変わらぬご理解ご協力の程宜しく願い申し上げます。



技術品質委員会 三輪 陽通

### 《安全衛生委員長 吉田 潤》

新年明けましておめでとうございます。

本年も宜しく願い申し上げます。

依然として引き続きコロナ禍により、昨年も当委員会では思うような活動をする事が出来ませんでした。皆様のお役に立つ活動が出来なかった事に対し、大変心苦しくお詫び申し上げます。

本年につきましては、感染拡大状況等を踏まえながらにはなりますが、出来る事やるべき事を吟味し活動して参る所存でございます。

昨年末より新型コロナウイルスの新たな変異株が出現し、コロナ禍の収束が未だ見通せない状況下ではありますが、会員企業各社様におかれましては、昨年同様に感染予防対策に配慮されながら、火災ゼロ・労災ゼロを目指し諸々お取組みの程お願い申し上げます。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の収束を願いつつ、本年が会員企業各社様におかれ素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます。

本年もRPF製造業界全体でゼロ災を目指し取り組んで参りましょう。



安全衛生委員会 吉田 潤

## 《用途開発委員長 岡 弘》

新年明けましておめでとうございます。

本年も宜しくお願い致します。

さて、RPFにとって今年はどうのような年になるか、正直、「不安」もありますが「期待」が大きいです。「脱石炭」「脱プラスチック」「カーボンニュートラル」「CO2 野心的 46%削減目標」など様々なキーワードが飛び交い、流行のSustainable（持続可能）であることは、口で言うのは容易いですが、激変する社会情勢や外的環境に対応するべく、RPF 工業会会員の皆様は、日々大変な努力されていると思います。

ここ2年の間に、RPFの社会的評価も期待値も「従来の姿」から大きく変わりました。大切なのは、「変化」に対しては、「変化」で対応することです。そのための準備、情報収集を怠らず、情報に翻弄されず、新用途を開拓しながらも目の前の顧客を大切にすること。工業会は、その最新の情報や事例をタイムリーに届けることが使命であると思います。

それは、他の業界も同じです。日本橋の「老舗」と言われる料亭で聞いた話ですが、有名な伝統的な旅館や料亭も、時代に合わせて味やメニューを少しずつ変えているそうです。

「進化論」の説を言うまでもなく、「変化出来る種」であることは、一番の強みです。

世界中を巻き込んだ、パンデミックは、収束の様子は見せていますが、相変わらず世相は落ち着きを見せません。まず、健康に留意しながら、RPFが環境分野に一層大きな存在感を残せるように、会員の皆様のご協力、ご助力をお願い致します。

用途開発委員会 岡 弘



## 《総務広報委員長 田墨啓治》

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

昨年は当工業会にとっても大きな節目の年でした。年始に念願であった外国人技能実習制度に於いて、RPF製造職種が新たに追加され、試験機関の認定を得ることが出来ました。「プラスチックに係る資源利用促進法」が国会で承認されました。3R+Renewableの骨子の中で、RPFについては業諸官庁に根気良く要望を伝えて行きました。「再資源化」ではケミカルリサイクル向けでプラスチック原料の一部に使用される場合は認められ、「再資源化等」では、より効率の良い熱回収として優先性を認められ、「再商品化」に於いてもRPFが定義されたことで、プラ新法を前向きにとらえることが出来たと思います。本年は東日本地域で新たにRPFを使用するボイラーが2施設稼働いたします。2030年までに約100万トンの新規ボイラーや既設に於いてプラス需要が見込まれています。原料となる可燃性廃棄物の確保には、新たな解決策が必要になります。

「再商品化」のように一般廃棄物の取り込みや、選別施設の高度化や新しい技術開発も取り組んで行かなればなりません。又、RPFを利用する段階で発生するGHG排出についても、実態に合った排出係数の見直しを業所管省に要望しております。

総務広報委員会では、行政、メディアに情報提供し、各委員会、事務局と連携しRPFの有用性をアピールして行き、会員企業様の事業発展の一助に繋げていけるよう取り組んで参ります。

本年が会員企業様にとって素晴らしい年になることを祈念いたします。

総務広報委員会 田墨 啓治





## 《海外事業支援ワーキンググループ長 加山順一郎》

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のおよこびを申し上げます。  
昨年当 WG は ZOOM にて打ち合わせを進めて参りました。ベトナムへの RPF のサンプル輸出が成功し、現地での PR、利用促進に向けて積極的に活動を進めたい中、新型コロナウイルス感染拡大が一向に終息せず、ベトナム国内でのロックダウンもあり思うような活動ができず大変申し訳なく思っております。外国人技能実習制度に RPF 製造が認定され、早いところでは第一期の実習生の受け入れを始める企業も出始めております。海外事業支援 WG としましては引き続きベトナム国内での利用促進、また将来的な現地製造に向けた勉強会等も企画できればと考えております。SDG s を推進し世界中が豊かで幸せな環境を創りだせる取り組みができるよう WG メンバーと共に活動してまいります。  
会員企業の皆様にとって、新年が素晴らしい一年となるよう心よりお祈り申し上げます。



海外事業支援ワーキンググループ 加山 順一郎

## 《RPF 製造技能実習評価委員会事務局統括責任者 遠藤 洋一》

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

昨年1月8日に外国人技能実習制度に、RPF 製造の職種が追加されることが公示され、同時に厚生労働省により技能実習の評価試験機関に指定されました。

廃棄物を有効に活用して、石炭などの化石燃料の代替製品として、日本国内のみならず、や化石燃料の代替燃料をして、今後大きな活用が期待されています。

昨年は、工業会の会員企業の皆さまに、外国人技能実習制度の受入機関の要件や技能実習の概要の説明会を開催させて頂きました、また、同時に技能実習生を送出側と日本の受入企業の仲介手続きを行う監理団体にも説明会の参加をして頂き、理解の促進を実施しました。

また、6月と7月には、外国人技能実習制度における技能実習の評価試験機関として、会員企業の皆さまのご協力で30余名の試験監督者に対して技能セミナーを実施して概要を理解して頂きました。

コロナの感染が落ち着き始めた11月に、試験監督者の方々へ技能実習評価試験を試験会場で実際に試験監督者として、また、試験を受ける受検者の立場で全ての項目について体験して頂き、活発で貴重な意見を頂いて、今後の試験体制が確立されたと思います。

今年になり、コロナ感染の影響がどのように展開していくのか、不透明な部分がありますが、コロナ感染が改善されて良い方向に進んで行くことを願っております。

監理団体の方々からの情報に依りますと、数カ国で実習生の候補者があり、日本の受入企業との間で話をしているとも聞いております。

今年には、実習生が来日して技能実習実施機関での実習が始まると思いますので、選任されました全国の試験監督者ならびに会員企業様のご支援を、宜しくお願いします。

新しい日本の環境に配慮した技術を技能実習制度を活用して、将来に海外へ技術の拡大を図る年のスタートラインとなると思っております。



RPF 製造技能実習評価委員会事務局統括責任者 遠藤 洋一

## 《事務局》

あけましておめでとうございます。

二年以上にわたる新型コロナウイルスの影響で、工業会も新しい活動様態を模索してまいりました。昨年度の社員総会は、バーチャルとリアルハイブリット型を試みました。また10月に行った専門委員会合同の勉強会は、Zoomを活用し講演会を実施いたしました。100名以上の参加者をいただき成功裏に実行することができました。

工業会として取り組まなければならない懸案が多々あります。理事会及び専門委員会のご指示をいただき、工業会の円滑な運営に寄与したいと考えています。

本年もよろしく願いいたします。

事務局一同

## 《編集後記》

### 干支から見た2022年の行方

2022年の干支は「壬寅（みずえの・とら）」です。

十干の「壬」は、はたおりの糸を巻き付ける軸を象形しており、内部に生まれた力が増える様子を表現しています。偏をつけると“妊（はら）む”や“任せる”となります。前年の「辛（かのと）」に生じておおきくなってゆく問題の解決を適任者に委ね、諸問題に対応すべき年といえそうです。

十二支の「寅」は、矢を両手で引っ張る姿をかたどっており、“引っ張る”や“伸ばす”、“協力する”といった意味を持ちます。一方、トラ（虎）はアジアを中心に生息する勇敢な動物であり、人々から恐れながらもその姿は人々を魅了してきました。

2022年は、ポストコロナの経済社会への対応やDXの実現、物流網の再構築などの様々な困難な課題に対し、皆が強い意志で一丸となって取り組み、中長期的な発展の礎を築く年といえそうです。

（参考文献：安岡正徳「干支の活学」プレジデント社等、浜銀総合研究所新年の話題から引用）

我々の業界に限らず、動脈・静脈産業が連携しあい、あるべき姿が共有でき、課題を解決して行かなければならないでしょう。

### 「脱炭素・再生可能エネルギーへの貢献」

今できること 未来のために出来ること

廃プラスチックの再資源化に取り組みます